

第16回 KIM-JIM シンポジウム開催報告

(2015年9月16日)

東北大学；教授 成島尚之

日本金属学会(JIM)と韓国金属・材料学会(Korean Institute of Metals and Materials: KIM)とが合同で開催している KIM-JIM シンポジウムの第16回が、日本金属学会2015年秋期講演(第157回)大会初日(2015年9月16日(水))に、九州大学伊都キャンパスで開催された。今回は、筆者と韓国・材料科学研究所(Korea Institute of Materials Science, KIMS)の Yong-Tai Lee (李龍泰)先生(図1)が世話人を務め、“Recent Advances in Titanium and its Alloys”のタイトルで、チタンおよびチタン合金に焦点を絞ったシンポジウムとした。世話人の Yong-Tai Lee 先生とは2015年1月より密接に連絡を取り合い、講演者やスケジュールに関してすり合わせを行ってきた。シンポジウム直前の2015年8月に米国 San Diego で開催された第13回チタン世界会議で直接お会いして、予稿集を作成することなどを打ち合わせた。

シンポジウムに先立ち、前日(9月15日)には福富洋志先生(日本金属学会会長)にも御参加頂き懇親会を開催し(図2)、会議前の最終的な打ち合わせを行った。シンポジウムは、チタン研究の最前線で活躍する研究者に講演をお願いし、日本側から8名、韓国側から7名という構成となった。

シンポジウムは16日午前10時から始まり、福富先生の開会の御挨拶に引き続き、Yong-Tai Lee 先生と新家光雄先生(東北大、前金属学会会長)が、それぞれ“R&D on the titanium in Korea”, “Research and development on Ti in Japan”とのタイトルで基調講演を行った。両国でのチタン研究の歴史や現在進行しているチタン関係プロジェクトが紹介された。その後、日本側からは、塙 隆夫先生(東京医科歯科大)、池田勝彦先生(関西大)、細田秀樹先生(東工大)、小林千悟先生(愛媛大)、江村聡先生(NIMS)、御手洗容子先生(NIMS)、中野貴由先生(阪大)、韓国側からは、Chong Soo Lee 先生(POSTECH)、Jong-Taek Yeom 先生(KIMS)、Joong Keun Park 先生(KAIST)、Jeoung-Han Kim 先生(Hanbat National University)、Seung Eon Kim 先生(KIMS)、Mok-Soon Kim 先生(Inha University)からの講演があった。内容としては、チタンに関する微細組織・相変態、加工熱処理、力学特性や耐熱特性といった基礎から、表面処理、溶解鋳造、付加製造や多孔質化といったプロセス関連技術、形状記憶・超弾性、生体応用や低コスト化といったチタン特有のトピックスまで幅広くカバーされた。

基調講演25分、一般講演20分という限られた発表時間ではあったが、いずれの講演においても活発な質疑応答、議論が行われた。シンポジウム終了後、韓国側参加者には金属学会・鉄鋼協会合同の懇親会に参加していただいた。懇親会では韓国側参加者がシンポジウム参加者以外とも親しく交流されていた。研究分野にも関連するとは思いますが、日本金属学会



図1 韓国 Yong-Tai Lee 世話人の講演。



図2 前日の歓迎会にて。
(前列左から3人目が筆者)

と韓国金属・材料学会の間の友好と連携を推進するという趣旨に鑑みれば大会初日の懇親会に参加していただくのは大切であると感じた。

シンポジウムは、チタンの基礎と応用に関してレベルの高い発表と活発な議論、意見交換により大変意義深いものとなった。両国の講演者には厚く御礼申し上げる。福富先生にはお忙しいところ懇親会やシンポジウムに参加していただいた。東田賢二先生(九大、講演大会実行委員長)はじめ実行委員会の皆様にはシンポジウム会場などで御配慮いただいた。新家先生、中野先生、戸田裕之先生(九大)にはシンポジウムの運営に関してアドバイスを頂いた。予稿集作成では上田恭介先生(東北大)にお力添えいただいた。梶原様(日本金属学会特別顧問)からはシンポジウムの計画段階から一貫して暖かい御支援があった。山村事務局長はじめ日本金属学会事務局の皆様には、シンポジウム当日の昼食や懇親会参加などで迅速かつ柔軟なご対応をいただいた。本当に多くの方々に御世話になったと改めて感じる。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

今回のシンポジウムを通してチタン研究分野での両国の交流がさらに活発になることを祈念しつつ、今後も KIM-JIM シンポジウムが継続することを期待したい。

(2015年10月26日受理)[doi:10.2320/materia.55.28]

(連絡先：〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-02)